

# 蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 24 年 1 月 25 日発行

第 34 号

発行人 校長 鈴木史良

## 実験して、発見して…

— なぞの気体の正体を探る理科の授業 —

1月23日（月）の5校時に、山口裕加先生による1年A組の理科授業が行われました。この授業は先生方の研修の一環として実施され、全員が参観しました。

学校にとって授業は「いのち」です。生徒たちが意欲的に取り組み、確かな学力を身につけることができる授業を追究するため、先生方も必死で勉強しています。今回、山口先生は身近な材料から気体を発生させ、その気体が何であるか実験で調べて、その正体を探らせようという授業を計画しました。

まず最初に、山口先生は自分の周りに生徒たちを集めて試験管とビーカーを手にとりました。そして生徒たちに向かって、「この赤茶色の液体に、ビーカーに入った無色透明な液体を混ぜるとどうなると思いますか？」と問いかけました。集まった生徒たちは、この授業までに酸素、二酸化炭素、水素、アンモニアについて学習してきましたので、これまで学習したいずれかの気体が出てくるに違いないと感じたようでした。

山口先生が試験管内の液体に無色透明な液体を注ぐと、またたく間に試験管が泡でいっぱいになり、生徒たちから驚きの声が上がりました。勢い余って、泡が試験管からあふれ出したほどです。理科という教科は、生徒たちの素直な驚きを誘発できる素敵な教科だと思つづく思います。

さて、自席に戻った生徒たちは、グループごとに気体が何であるかを調べる実験方法を考えました。それが決まると、いよいよ自分たちで謎の気体を発生させ、それを集めて、気体の正体が何であるかを調べ始めました。

「水上置換法で集められたから、アンモニアではないね。」

「そう、臭いもないし…。」

「白く濁らないから、二酸化炭素でもないと思う。」

既習事項が生徒たちの頭の中を駆けめぐり、ターゲットが絞られていきました。

「マッチを近づけても、ポン！という音がないぞ。」

「それじゃあ、酸素じゃないかな？」

火のついた線香をゆっくり試験管の中に入れてみると、線香の先端が一瞬、明るい炎に包



まれました。「酸素だ！」謎の気体の正体を見つけた生徒たちの表情が、明るく生き生きと輝きました。

最後に明らかにされた赤茶色の液体は水で鳥レバーを溶かしたもの、無色透明な液体はオキシドール（過酸化水素水）でした。

## インフルエンザ、引き続き警戒態勢続く

今週に入り、西小でも学級閉鎖が発生。インフルエンザで生徒たちの欠席状況が心配されましたが、深良中は落ち着いています。手洗い・うがいの励行や風邪気味な生徒のマスク着用、消毒等は引き続き行っていきます。ご家庭でも、37.5℃以上発熱した場合は、無理して登校させずに休ませてください。

## 後期学校自己評価の公表について

学校だより第31号（12月21日発行）で概要をお知らせした後期学校自己評価結果とその分析を公表いたします。紙媒体での配付の他、深良中ホームページでも公開いたしますので、ご覧ください。

本校は組織マネジメントに基づく学校自己評価システムを学校改善に取り入れています。学校が目指そうとしている教育が、ねらい通り達成されているかを明らかにし、一歩でも二歩でも学校教育の質（クオリティー）を高めていくことを望んでいます。

### ある日の授業風景

1年 保健体育 「柔道」

授業者名 田代 昌平



「この人はどのようなことをした人でしょうか？」

「えっ、誰？」「偉い人！」「わからないなあ・・・」「お金持ちのお爺さん？」

この方は、講道館柔道の創始者であり『柔道の父』と呼ばれる嘉納 治五郎（かのう じごろう）さんです。

深良中学校でも柔道の授業が始まりました。来年度より、新学習指導要領が全面実施され、武道が必修となります。本校では、男女ともに柔道を授業に取り入れています。

授業では、授業の約束や柔道着の着方、礼法や立ち方、座り方から学習します。生徒のほとんどが未経験者なので、「上着はどっちが前にくるの？」「ズボンが反対になっちゃった。」「帯の結び方はこれでいいんだよね？」柔道着を着るだけで悪戦苦闘。それでもなんとか着ることができ、「〇〇くんかっこいいよ！」「〇〇ちゃん強そうだね！」などと、とても楽しそうな表情で授業に取り組んでいました。

礼に始まり、礼に終わる！生徒たちにとって日本の伝統文化を肌で触れ合うこの貴重な体験をしっかりと学習して欲しいです。

